

水口工場を再稼働

コンベアなど 山科精器、8年ぶり



【大津】 休眠中の水口工場（滋賀県甲賀市）を約8年ぶりに再稼働する。生産現場で深刻化する人手不足を受けて、コンベアなど自動化機器の受注が増加しているた

め。本社工場が手狭で増産対応が難しく、稼働再開を決めた。生産規模は当初は売上高べ

水口工場は敷地面積が約8000平方メートル、延べ床面積は約3000平方メートル。再稼働する同工場には、コンベアやハンドリング機器などの自動化設備やロボ

ット、省力化機器を生産するほか、FA機器の受託生産なども本社工場から移管する。人手不足を背景に生産現場の効率化要望は高まっている。同社では今後も自動化需要は増えるとみて、水口工場での人材確保などを進めていた。

水口工場は電気機器の生産拠点として1972年に開設。大手電機メーカーからの受託生産が急増し、ピーク時の生産量は売上高べ

ースで年間1億円でスタートし、早急に同3億円に引き上げる。

同工場は電気機器の生産拠点として1972年に開設。大手電機メーカーからの受託生産が急増し、ピーク時の生産量は売上高べ

ースで年間30億円規模に拡大した。しかし取引先の海外展開が進んだことで受注が落ち込み、09年に生産を休止し、賃貸工場として活用していた。

同社は工作機械、船舶、発電プラント向け熱交換器や、産業機械向け注油機などの潤滑機器を生産する。最近

は新事業としてカテーターなど医療機器関連にも取り組んでいる。

陽一郎社長、077・558・2311）は2017年1月中にも

は新事業としてカテーターなど医療機器関連にも取り組んでいる。